

(⇒表からの続きです)

中との試合ですが、オーダー（誰と誰が対戦するかという組み合わせで、試合ごとに変更することができます）でいけば、拮抗（キッコウ：たがいに負けず、張り合うこと）したものになりました。小中野中のWエースである、　くんと　くん（二人とも個人戦でも県大会に出場します）が、中のやはりWエースである二人（やはりこの二人も個人戦で県大会出場を決めました）と対戦することになりました。この2つの戦いの結果が、決勝リーグ進出を左右することになります。予想通り、どちらの戦いもデュースになりましたが、小中野中が勝ち、俄然（ガゼン：にわかに。たちまち）有利になりました。次は、　くんと　くんのダブルスです。ここは、善戦むなしく敗れてしまいましたが、1セット目をデュースに持ち込むなど雰囲気は悪くありません。次の4番は　くんです。1セット目は惜しくも取られましたが、その後の3セットを取り返し見事勝利をおさめ、小中野中は3日目の決勝リーグに進出したのでした。決勝リーグというのは、夏季大会では3日目に行われるもので、進出した4つの学校による総当たりの戦いです。いくら個人戦で県大会出場を果たしても、個人戦は2日目で終了するので、団体戦のベスト4に残らない限り、卓球競技の3日目はないのです。ここに出るというのが、ここ数年的小中野中の悲願（ヒガン：ぜひ成し遂げようとする願い）でした。それを達成したことになります。決勝リーグには、秋季大会優勝の中、昨年度夏季大会優勝の中、そして予選リーグで1回戦っている中という3校が順当（ジュントウ：当然）に残りました。

決勝リーグの3試合ですが、この日は顧問である市川先生のオーダーがことごとく的中（テキチュウ：予想などがよく当たること）しました。まさに“神ってる”というのは、こういうことだと思います。1試合目の　中戦では、大胆（ダイタン：度胸があって物事を恐れないこと）にも、相手に1点も与えないというオーダーがピタリと当たりました。1番の　くんが、相手との接戦を制して3対2で勝ちました。続く　くんも、相手チームとのエース対決を3対1で制し、これあと1点を得れば想定（ソウティ：ある状況を仮定して考えること）した3対0となります。ダブルスは、　くんと　くんのペアです。1セット目はデュースとなりましたが、ここを取ったことが物を言って（モノライウ：役に立って）3対0となり、見事3対0での勝利となりました。続く　中との戦いが、最終的には事実上の決勝となりました。　中には、その世代では八戸市で負けたことのない選手（もちろん前日の個人戦でも1セットも失わずに優勝）とベスト4に入った選手、そして県大会に出場するもう1人の選手の手ごわい3人がいます。この誰かを倒さなければ勝つことができません。1番の　くんは相手の絶対王者に、　くんも個人戦ベスト4の選手に敗れてしまいました。ここで、勝負のダブルスです。市川先生は、ここで　くんと　くんというペアを組みました。普段はあまりダブルスを組む2人ではないのですが、2人の力がうまくかみ合えば、十分勝つチャンスがあるという考え方です。思惑（オモワク：考え）どおり、1セット目を11-5で取りました。しかし、ここで勝ちを意識したのか、なかなか積極的に攻撃できなくなり、8-11・11-13・8-11と惜しくも連続で取られ、ゲームカウント0対3で敗れたのでした。ただ、次の　くんは、県大会にも出場する相手の選手にすでに勝っていましたし、最後の　くんも実力からいけば、相手の選手に3対0で勝つことは確実でしたから、スコアほどの差はない、本当に惜しい負けでした。しかし、ここでがっかりするわけにはいきません。次の　中に勝たなければ、県大会出場はありません。1番の　くんは、相手のエースと2対2の大接戦となり、5セット目もデュースにもつれこみましたが、勝ちをおさめました。2番の　くんは3対0で勝ち、3番の　くんと　くんのダブルスは2対3で惜しくも敗れ、4番の　くんです。　くんは1・2セットを取り、3セット目は取られたものの3対1で勝ち、小中野中は準優勝と県大会出場を果たしたのでした。

3日間の戦いを振り返って、その勝因（ショウイン：勝利の原因）を考えてみた時、何といつても大きいのは、団体戦メンバー8名が、それぞれの役割を確実に果たしたことにつくるのではないかと思います。　くんと　くんのWエースは、団体戦においては一度も負けることのない全勝で県大会出場に大きく貢献しました。　くんは、　中との2度の戦いにおいて勝利を決定づけるポイントとなる働きをしました。　くんも、　中との一戦では自らの勝利で決勝リーグ進出を決めました。

　くんと　くんは、ダブルスとシングルスの両方において活躍しました。　くんも、予選リーグの中戦に出場し、勝利を得ました。　くんも、初日の予選リーグでは体調が悪く出場することができませんでしたが、決勝リーグの中戦ではタブルスにて勝利を決定づける試合をしました。さらに、市川先生の対戦相手を細かく分析したオーダーと試合中の適切なアドバイスも見逃すことはできません。そして何よりも、ベンチでの応援が良かったと思います。普段は静かな印象の　くんですが、試合ではポイントを重ねるたびに、リオ五輪メダリストの　選手のような上半身を反らせるようなガツツポーズを繰り返していました。市川先生も、両手をあげて大きな声を出していました。こういった、選手とベンチが一体となった部分も、勝利を大きく手繕り寄せた（タグリヨセル：自分の方に引っ張り寄せる）のではないかと私は思っています。

さて、明後日から県中体夏季大会が始まります。チームとしての出場を果たす男子卓球部はもちろんですが、女子卓球部の　さん、剣道部の　くんと　くん、柔道部の　さんと　さん、そして新体操競技の　さん、小中野中全校生徒の思いとコナ中プライドを力に変えて、最後まで全力で戦って来てください。吹奏楽部のみなさんも、東運動公園陸上競技場での開会式は、暑さとの戦いになると思いますが、体調に留意しながら精一杯演奏して来てください。（その前に、明日の「全校共通漢字・語句コンテスト」を乗り越えてください。全校のみなさんですよ。）